

## 《単位互換提供科目詳細》

\* 科目 No. 1117

## 科目概要記入欄

1. 開設大学名	広島経済大学		科目開講 キャンパス			
2. 科目名	正式科目名	電子金融取引Ⅱ			クラス名	
	副題	情報技術と決済システムの実際について学ぶ			配当年次 3 受入学年 3年以上	
	旧科目名					
	学問分野	番号	27	名称	社会科学系, その他	
	サテライトで開講される科目の科目群		A 群	B 群		
3. 担当教員名	久保 大支・ビジネス情報・助教					
4. 単位数	2 単位		5. 開講学期	後期		
6. 開講期間 曜日・時間	2016年 9月 27日(火) ~ 2017年 1月 17日(火) 火曜日 9:00 ~ 10:30					
個別開講日	1回目 9/27	2回目 10/4	3回目 10/11	4回目 10/18	5回目 10/25	6回目 11/1
	7回目 11/8	8回目 11/15	9回目 11/22	10回目 11/29	11回目 12/6	12回目 12/13
	13回目 12/20	14回目 1/10	15回目 1/17	16回目	試験日	/
7. 基礎知識の有無	2. 「基礎知識を必要としない科目」					
8. 募集人数 (総授業定員)	制限なし (人)		9. 定員超過時の 選考方法	なし		
10. 科目内容・ 授業計画	<p>1. 到達目標</p> <p>本講義では昨今の金融革新の根幹となる金融の電子化にかかわるトピックについて理解を進め、とくに電子決済とセキュリティ、電子マネーについての知識を習得することを目標とします。</p> <p>2. 授業内容</p> <p>情報技術(IT)革命の進展は、金融サービス・金融市場においても急速に様々な構造的変化をもたらしています。本講義では、このようなサービス、市場における電子的な取引について、理論的な分析と実際のケーススタディの両面から考察します。そして特に、この「電子金融取引Ⅱ」では電子的取引に伴って発生する様々な副次的ではあるが重要な問題に焦点を当てます。</p> <p>3. 授業計画</p> <p>第 1 回 Ch.0 イン트로ダクション: 講義概説, 成績評価法, 目的と方法論 Ch.1 電子金融取引の現状について(1): 電子金融取引の現状と将来</p> <p>第 2 回 Ch.1 電子金融取引の現場について(2): 電子商取引(CtoC 取引, BtoC 取引), デビットカード (rep.1)</p> <p>第 3 回 Ch.2 電子金融取引とセキュリティ(1): SET と SSL—歴史と技術 (rep.2)</p> <p>第 4 回 Ch.2 電子金融取引とセキュリティ(2): 公開鍵方式と電子署名</p> <p>第 5 回 Ch.2 電子金融取引とセキュリティ(3): PKI (rep.3)</p> <p>第 6 回 Ch.3 電子マネーとは(1): 電子マネーの定義</p> <p>第 7 回 Ch.3 電子マネーとは(2): 電子マネーの歴史(rep.4)</p>					

10. 科目内容・ 授業計画	<p>第 8 回 Ch.3 電子マネーとは(3):電子マネーの分類 (rep.5)</p> <p>第 9 回 Ch.4 電子マネーの現状:非接触 IC 技術, Felica</p> <p>第 10 回 Ch.4 電子マネーの現状(1):Edy, Suica, nanaco (rep.6)</p> <p>第 11 回 Ch.4 電子マネーの現状(2):世界事情</p> <p>第 12 回 Ch.4 電子マネーの現状(3):カード会社と電子マネー (rep.7)</p> <p>第 13 回 Ch.5 電子金融取引と今後(1):モバイル化と支払い方式の今後</p> <p>第 14 回 Ch.5 電子金融取引と今後(2):電子マネーと法制度 (rep.8)</p> <p>第 15 回 Ch.5 電子金融取引と今後(3):電子マネーと決済制度 (rep.9)</p> <p>4. 準備学習等の指示        毎回, 講義内容を WORD で原則 A4 サイズ 1 枚にまとめた「講義のまとめ」を LMS を通して提出してもらいます。これにより, 自分の中でその回の講義内容を整理してもらうことになります。        また, レポートを 9 回課します。これは講義のメイン資料に加え, トピック毎に提示するサブ資料にあたることで, より理解を深め, そのトピックに対して自分なりの考えを培ってもらうためのものです。        最後に, 毎回講義の翌日には次回の講義内容を LMS に掲載します。「講義のまとめ」を提出するさいに, 併せてダウンロードし必要があれば印刷して予習を行った上で, 講義に備えます。よって原則としてプリントは配布しません。</p> <p>5. 教科書        テキストは使用しません。各回毎に LMS に講義資料を掲載します。</p> <p>6. 参考文献        ・ 西垣通 他(1999), 『電子貨幣論』, NTT 出版        ・ 藤田渉・深浦厚之(1998), 『ネットワーク社会とペイメントメカニズム』, クレジット産業協会クレジット研究所        ・ 杉浦宣彦(2010), 『決済サービスのイノベーション』, ダイヤモンド社</p>		
11. 試験・評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ レポート, 小テスト:40%, 定期試験(参照不可):60%の比率で評価し, レポートは合格するまで点数はつきません。</li> <li>・ 以上にかかわらず欠席 4 回以上もしくはレポート未提出 3 回以上で単位認定不能となります。遅刻は 2 回で 1 回の欠席として扱います。</li> </ul>		
12. 別途負担費用	ありません。		
13. その他特記事項	ありません。		
14. サテライト科目の 社会人受講について	科目等履修生(単位付与)として受け入れ	可	否
	聴講生(単位認定不要)として受け入れ	可	否